

# 上司と部下で作るリウマチ医 ワークライフバランス

京都大学大学院医学研究科臨床免疫学  
三森 経世、中嶋 蘭

# 大学でのキャリア形成と ワークライフバランス

# 私の履歴書

H12年 京都大学医学部附属病院に「免疫・膠原病内科」が新設（医学部5回生）  
三森先生が慶應義塾大学から京都大学へ教授として着任される  
→ 病院実習で膠原病の臨床に触れる

H14年 京都大学卒業 京都大学病院内科研修医ローテート

H15年 静岡県立総合病院 内科研修医ローテート

H17年 京都大学大学院医学研究科臨床免疫学大学院生  
リウマチ・膠原病について臨床・研究を学ぶ

H19年 認定内科医

H21年 学位取得

H22年 免疫・膠原病内科 医員

H23年 リウマチ専門医

H24年 特定病院助教

H26年4月～H27年3月 産休・育休

H28年 助教

13年間  
大学病院勤務

• H29年 病棟医長 H28年 総合内科専門医

# 「女性」として大きく悩んだ時期2つ

①

H15年 静岡県立総合病院 内科研修医ローテート

H17年 京都大学大学院医学研究科臨床免疫学大学院生

結婚時期の悩み—— (悩み)女性としての幸せは何だろう？

時間・負担の軽い仕事を選択すべき？

三森先生に

・東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター教授原まさ子先生をご紹介いただく

・医者になりたいと願い、これまで学歴を積んできた長い時間と労力は貴重なもの

②

H25年 妊娠

H26年 出産・育児

悪阻が強く、臨床を続けられない・仕事ができない

→大学病院で複数の医局員がサポート・カバーしてくれた(交代で代診)

出産後は育児に追われ、復帰しても元通りの仕事量ができるか自身がない

→当直を外す、担当患者数は少数から様子をみながら など仕事量を軽減してもらえた

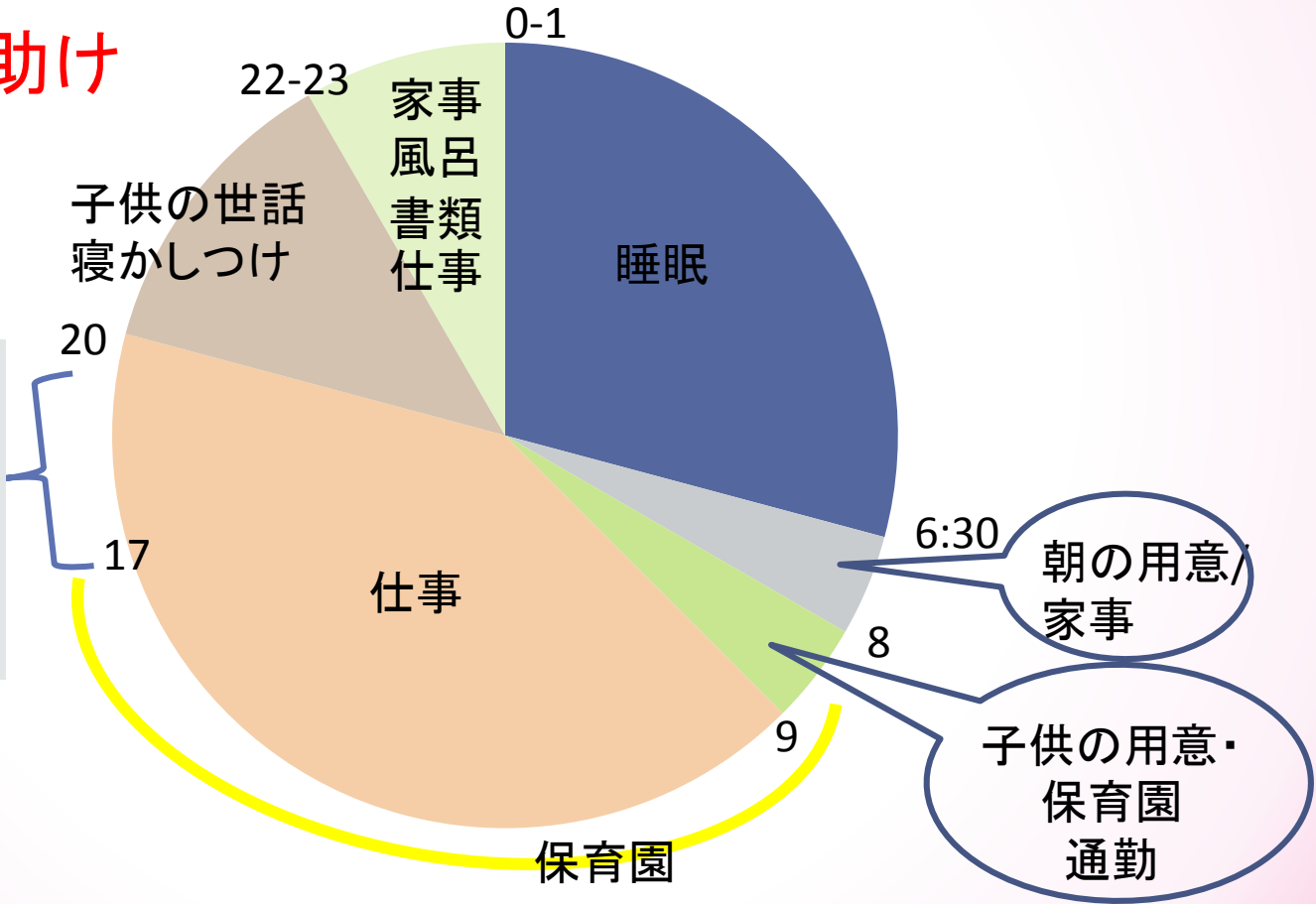
復帰後子供の病気時などに急に休まねばならない

→大学病院であり医局員が多い利点を生かしてサポートをしてもらえる

# 子育てしながらの仕事

## 家族の理解・助け

実母が近隣に居住しており、保育園のお迎え～夕食(入浴)を手伝ってもらえる



# 大学助教としての仕事の割合

診療(外来・病棟)	研究・指導	治験 関連	雑用
-----------	-------	----------	----

- ・ 週2回外来・病棟担当(主治医が3人制度 スタッフ一医員一研修医)  
当直を外してもらっている
- ・ 周囲に子持ちの同僚が多く、状況をよく理解してもらえる環境

上司の理念: 女性でも築いてきた医師/研究者としてのキャリアをぜひ継続してほしい(各々にできる形で)

同僚の反応: ワーク・ライフいづれについても困難なことを理解してくれる人が多くいる(子持ちの同僚が多い・同じような年齢の子持ち)  
協力も非常によい

自分の気持ち: 働き甲斐がある・仕事をしている方が活力ある生活ができる

- \* 上司・同僚に自分の仕事を認めてもらえる  
人に必要とされる(患者さん・職場)  
学会など活躍・役割の場を与えられる

## 要望(あればいいなと思うもの)

- ・在宅で仕事ができる環境・制度
  - 在宅オンラインジャーナル
  - 在宅診療(カルテ記載・閲覧など)
- ・在宅学習
  - 研究会や学会に思うように出られない内容の動画配信やiPodなど

# 京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科



ご清聴ありがとうございました